

# 地域連携による森林づくりについて

所 属 青森県 鱒ヶ沢町 企画課 石塚 洋介

## 1 はじめに

これまで森林の造成は、直接山と生活が関わっている一部の人々に限定されていたが、森林に対する国民的関心の高まりとともに、森林の持つ様々な効用が理解されはじめ、全国各地において国民参加による森林づくりが行われてきている。

このような中、鱒ヶ沢町においても森林づくりの一環として、このたび初めて地域連携による植樹活動を行ったことから、この実施内容について報告する。

## 2 町の概況

### (1) 地理的状況

鱒ヶ沢町は青森県西部に位置し、一方を海に、三方を森林・原野に囲まれた自然豊かな町である。

県内市町村第3位である町の総面積343.01km<sup>2</sup>のうち、森林面積が260.08km<sup>2</sup>(77.3%)で、そのうち国有林野面積が178.11km<sup>2</sup>(67.2%)となっている。

この国有林野内には、世界遺産白神山地及び岩木山の一部をはじめ、日本の滝百選の一つに数えられている「くろくまの滝」や、巨木を育む森として東北森林管理局青森分局が指定した「奥赤石ブナ遺伝資源保存林」及び「矢倉山スギ遺伝資源保存林」等があり、自然を求める来訪者が年々増加している。

このように豊かな森林環境が特徴的である一方で、日本海に面していることから藩政時代は御用港として位置付けられ、その後の大正期からは漁業が産業の中心として栄えた港町であるとともに、県内における環日本海の産業・経済交流の拠点として建設された七里長浜港があるなど、町民にとっても町のイメージは海であることが非常に強い。

### (2) 人口及び産業構造

国勢調査による当町の人口は、昭和30年の町村合併時の23,026人から一貫して減少傾向を辿り、昭和50年には18,086人、平成7年には14,077人にまで減少しており、比率では、29歳以下の若年者が13.9%と県平均の18.5%を下回る一方、65歳以上の高齢者では22.4%と県平均の15.9%を大幅に上回り、高齢化がハイペースで進んでいる。

第一次・第二次産業別生産額における平成9年度の総数は28,879百万円であり、その内訳では農業4,427百万円(15.3%)、林業539百万円(1.9%)、水産業674百万円(2.3%)、建設業19,218百万円(66.6%)、製造業4,021百万円(13.9%)となっており、減少傾向にある第1次産業の中でも林業については特に低いものとなっている。

### 3 植樹活動の目的及び経緯

鱒ヶ沢町は、町土の約8割が森林で占められているものの、上記のとおり古くからの港町であり、また、林業基盤が脆弱であったことから、森林・林業に対する町民の関心は極めて低いのが現状である。

しかしながら、当地特有の豊かな自然環境を後世に引き継ぐためには、町民一人ひとりが森林・林業に対する理解を深めていくことが不可欠であり、このための啓蒙活動の強化が町として取り組むべき大きな課題の一つとして浮上した。

また、これまで当町においては、漁業と林業の接点がほとんどなく、海は海、山は山と切り離された事業展開が図られていたことから、反省点も少なくない。

このような状況に鑑み、流域における川上と川下、それぞれの住民及び関係者が流域全体を通し、新たな発想を持って地域の活性化に結び付けることに着目し、互いの状況及び事情を知り、そして理解し合うことが必要であるとの認識から、積極的に交流機会を創設することも目的の一つとされた。

したがって、森林・林業に関する啓蒙と地域連携を図るため、地元漁業協同組合及び森林組合を対象とし、町と西岩木山森林環境整備推進協議会とがタイアップするとともに、津軽森林管理署鱒ヶ沢事務所の協力を得ながら、地域連携による森林づくりを行うこととした。

### 4 活用した財源等

#### (1) 青森県森と川と海の絆推進事業費補助金

当補助事業は、健全な森林の育成は漁場環境の保全に結びつくとの観点から、森林・林業に対する理解と森林づくりに関する啓蒙普及を目的としており、漁業関係者が中心となり森林造成を実施する市町村を対象に、県がその助成を行うものである。

この補助金の額は、600,000円を上限とする当該経費の2分の1に相当する額であり、今年度における植樹活動の実施のため、昨年度県に対し事業要望していたものである。

#### (2) 森林環境整備推進協力金

西岩木山森林環境整備推進協議会は、西岩木山森林空間総合利用地域（レクリエーションの森）において、利用者の快適な利用を図るため、豊かな森林環境の維持・保全及び美化活動に対する事業等を、利用者の自主的な協力で得た協力金で行うことを目的とし、平成8年11月に設立された。

当協議会では、平成8年から募金方式により協力金の収受活動を実施しており、平成11年度末で累計37,150円の協力をいただいたところである。

しかしながら、協力金が少ないため事業の実施が困難であり、昨年1月に開催された当協議会において、他の事業等と連携しながらの実施も視野に入れることとした。

このようなことから、森林造成に関する事業について各方面に問い合わせた結果、町の水産振興室において森と川と海の絆推進事業を検討していたことから、連携しながら実施することとした。

## 5 経費関係

森と川と海の絆推進事業費補助金及び森林環境整備推進協力金の2種類があることから、それぞれに応じて割り当てをした。

内訳については表-1のとおりである。

表 - 1

区分	県補助金	協力金
植え付け事前準備	480,000	6,000
ラジメ代 (6年生ラジメ)	(500本) 367,500	(30本) 21,000
黒土代	78,750	
用具代	104,900	
標柱代	31,500	10,000
昼食代	75,850	
事務費	61,500	
計	1,200,000	37,000

## 6 準備関係

手続き等については協議会事務局が担当し、当日の作業に関する準備は、町の水産振興室を担当とした。

### (1) 植樹の実施月日

平成12年10月30日

### (2) 実施箇所

西岩木山森林空間総合利用地域内の植樹を希望し、津軽森林管理署鯉ヶ沢事務所と相談した結果、西岩木山国有林76林班へ小班内とした。

なお、当箇所は平成11年まで町が町道敷として貸付を受けており、新道の建設により緑化し返地した箇所の一部である。

### (3) 樹種

関係者に意見を伺ったところ、そのほとんどがブナを希望したことから、今回はブナの植樹とした。

### (4) 植樹申請

国有林野内に植樹をすることから、植栽木は国に帰属する条件で、津軽森林管理署鯉ヶ沢事務所に植樹申請書を提出し、承認をいただいた。

### (5) 植え付け準備

当該地は緑化した草本類が敷き詰まっているとともに、土中の岩石も多いことから、植樹部分の若干の掘り起こしについて、つがる森林組合に委託をした。

また、時期が若干遅いことを考慮し、客土用として黒土を準備した。

## 7 実施状況

### (1) 参加者

- ・ 漁業関係者 (漁業協同組合) 52名
- ・ 林業関係者 (森林組合) 8名
- ・ 町職員 5名

- ・西岩木山森林環境整備推進協議会 4名
  - ・津軽森林管理署鱒ヶ沢事務所 2名
  - ・青森県水産部漁政課 3名
  - ・青森県水産試験場 4名
  - ・青森県鱒ヶ沢地方水産業改良普及所 3名
  - ・西北地方漁港事務所 2名
- 計 83名

## (2)作業状況（写－1～4参照）

主催者であり、西岩木山森林環境整備推進協議会長でもある長谷川兼己鱒ヶ沢町長が挨拶を述べ、来賓を代表して青森県水産部漁政課長から挨拶をいただいた後、全員で作業を開始した。

漁業者のほとんどは、初めて見る小さなブナの苗木を手に取り、ブナ大木のイメージとのギャップに皆驚いた様子であった。

植樹作業はつがる森林組合の指導のもと、土が掘りやすいよう事前に処理した箇所を掘り、苗のポットを外して適度の深さに入れ、黒土により客土をした後、支柱に苗木を結わえた。

約1時間30分の植樹作業中には、林業関係者から森林の働き及び効用の他、町における森林の位置付け等の説明も行われた。

## 8 実施結果

### (1)参加者の感想

作業終了後、漁業関係者17名に感想を聞いた主なものとして、

- ・立派な森となって海に栄養を与えてもらいたい。
- ・林業はとても息の長い産業であり、将来を十分考えなければならない難しい仕事であることを実感した。
- ・山が町の大部分を占めていること、また、山の恩恵を受けて生活していることを知ることができた。
- ・海洋資源にも限りがあることから、林業を参考に漁業も育てた魚を捕る方向への転換が必要である。
- ・今後、自分の植えたブナの成長を見ていきたい。
- ・森林は遠い存在と思っていたことから、このような体験ができてよかった。また、林業関係者から森林の働き等を説明してもらいとても参考になった。
- ・自分が植樹したことで森林に関心が持てた。今後、森林について学習していきたい。
- ・来年度以降もぜひ実施したい。

等があり、中でも多かったものは継続実施を希望する声であった。

### (2)実施効果

今回の植樹は、町が主体となり漁業関係者に参加を働きかけて実施したことから、単

なるイベント的なものとして捉えられることを危惧していたが、林業関係者と漁業関係者が手を携え、また、自らが汗を流して植樹したことも加わり、「実施してよかった」、「今後森林について学習したい」等の意見が出され、森林づくりの大変さや貴重さが理解されはじめたとともに、町の特性についての認識も深まり、予想以上の効果があったと考えられる。

## 9 おわりに

漁業及び林業関係者や行政等が連携し、森林づくりの第一歩を刻んだことでは素直に評価したいところである。

しかしながら、本来あるべき「地域連携」を踏まえるとまだ不十分であることから、今後は業種等にこだわらず、自主的により多くの参加を求めていかなければならない。

また森林造成については、ブナ植樹が良いという風潮があることから、適地適木についてPRするとともに、植樹のみならず保育活動も行うなど、森林・林業に関する正しい知識の普及を強化しなければ、それこそ森林造成自体が間違った方向へ進むこともあり得るものと考ええる。

このように様々な課題も多く抱えているが、地域連携による森林造成は、地域振興の観点から見ても極めて有効的であると思われる。

過疎町村である当町は、地域振興を図るためこれまで各種法令等に基づき、行政主体による様々な施策を展開してきたが、他地域との格差是正には至っておらず、人口の減少が続くなど依然として厳しい状況にある。

一方、都市部においては社会資本整備が充実し、利便性・快適性をもたらしたものの、自然環境及び社会環境の悪化をもたらすなど、より深刻な問題へと波及している。

こうした中、真の豊かさとは何かという論議が起こり、地域に目が向けられてきている状況に鑑み、地域特性を活かした地域間交流が振興策の一つであることから、個性的な地域づくりが求められる。

鱒ヶ沢の豊かな自然は、多面的な価値を持つ地域資源として、21世紀の諸課題に応える潜在的な力を備え持っている。

したがって、町民が本当に地域を知り、それにより生み出された新たなアイデア・発想を基に地域づくりを行うためにも、地域一体となった取り組みが必要であることから、より一層の連携を図り、今後も森林づくりを実施していきたいと考えている。

最後に、このたびの植樹活動に際し、ご協力いただいた津軽森林管理署鱒ヶ沢事務所ならびに青森県関係機関に対し、心から感謝申し上げたい。

写 - 1



写 - 2



写 - 3



写 - 4

